

## 授業評価ツールとしての「アンケート」の優位性について

教室運営を行う上で、その業務は、講師管理、生徒の嗜好把握、保護者とのコミュニケーションや、指導方法の立案など非常に多岐に及び、加えて、教室そのものが維持、発展できるよう、経営者としての資質も求められることとなります。それぞれに非常に高いスキルが求められ、結果を出し続けていくことが難しいことはいまでもありません。

ただ、これらの業務すべてに関わってくる重要な情報があります。

### 「生徒の授業に対する満足度」です。

しかし、重要な情報ではあるものの、その情報は、「生徒からの複数の授業(講師)に対する複数の評価項目(科目、分かりやすさ、親しみやすさなど)」であり、複雑なマトリックスとなるため、生徒全ての情報を把握することは、困難と言わざるを得ません。

アンケート用紙を配布して集計し、把握しているつもりでも、冒頭に記載したような多忙な業務の中でうっかり相性の悪い講師を担当させてしまい、生徒が不信感を抱き、休塾に繋がるといった状況も珍しくはないのではないでしょうか。

上記のような失敗を避け、かつ、授業評価を一時的な人気投票や、講師の人事考課のツールのみで終わらせないためには、

- ・どの生徒がどの講師をどう思っているかを即座に検索、閲覧できなければならない。
- ・どの講師がどの生徒にどう思われているかを即座に検索、閲覧できなければならない。
- ・実施から集計までは、生徒と担当者以外が内容の操作や閲覧をできる状況を作ってはならない。
- ・新入生や新人講師の増加に対応するため、短いスパンで実施できなければならない。

といった条件が必須だと考えます。

これらは、従来の紙のアンケートでは実現できない、または実現が難しいものばかりですが、

### 「アンケート」ではすべてが容易に行えます。

教室運営者の皆さまには、アンケートの集計といった事務的な作業ではなく、その結果を用いて、対生徒、保護者、講師といった、より次元の高い、

人と人との対応に、時間を費やしていただけます。